

上郡町地域公共交通に関する  
アンケート調査結果

～ 概 要 版 ～

令和 7 年 5 月

## — 目次 —

	頁
1. 地域公共交通に関するアンケート調査概要	1
1.1 調査目的	1
2. アンケート結果	2
2.1 地域公共交通の認知状況	2
2.2 コミュニティバスの必要性	3
2.3 日常的によく行く施設	5
2.3 公共交通を利用する上での問題点	6
3. 現状と課題	8
4. 課題を受けた対応方針	8

## 1. 地域公共交通に関するアンケート調査概要

### 1.1 調査目的

本調査は、今後のコミュニティバスや乗合タクシーの再編に向けて、地域の交通課題の把握・上郡町の公共交通の利用意向について、広く地域の住民の意見を収集し、コミュニティバスや乗合タクシーの改善に向けた基礎資料として活用することを目的に実施した。

アンケート調査票は、巻末資料1に示すとおりである。

#### < アンケート調査の概要 >

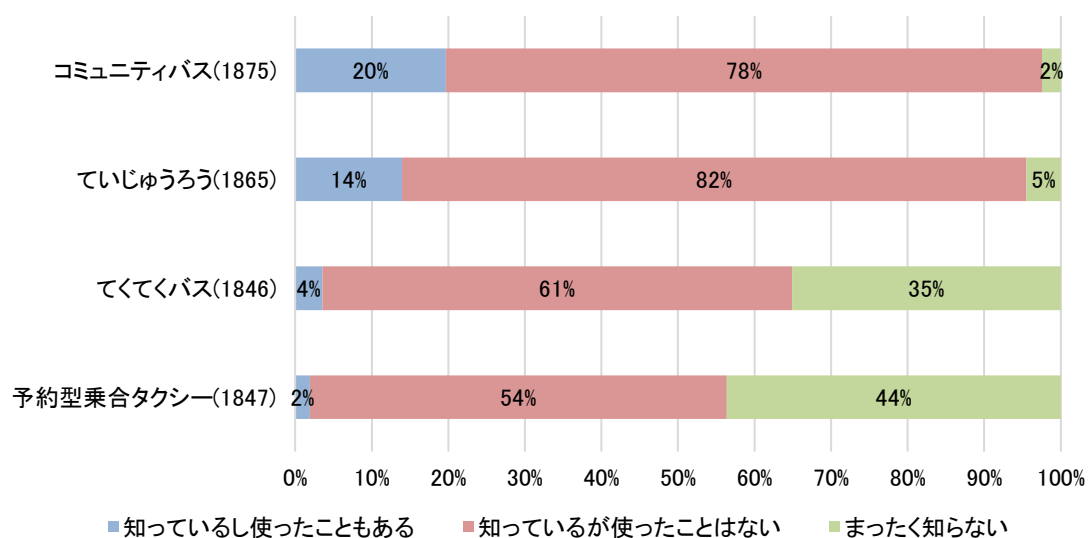
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者大学千種川学園受講生</li> <li>・いきいき100歳体操参加者 (上郡、山野里、高田、高田台、赤松、鞍居、船坂で全9回実施)</li> <li>・上郡町に居住する全世帯(高齢者大学、いきいき100歳体操で回答済みの方は対象外)</li> </ul>																		
調査日	<p>【高齢者大学】 令和6年11月16日(土)</p> <p>【いきいき100歳体操】 令和6年11月26日(火)～令和6年12月16日(月)</p> <p>【全世帯】 令和6年12月20日(金)～令和7年3月21日(金)</p>																		
調査方法	<p>【高齢者大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に「説明資料」を配布し、上郡町内の公共交通の現状や公共交通の課題と上郡町がめざす将来像について周知した上で、アンケート調査票を配布し、次回高齢者大学開催時(令和6年12月5日(木))までに、高齢者大学に提出</li> </ul> <p>【いきいき100歳体操】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に「説明資料」を配布し、地域の公共交通に対する意見・要望等をヒアリング</li> <li>・アンケート調査票を配布し、その場で記入いただき回収</li> <li>・当日アンケートの記入が難しい場合は、次回いきいき100歳体操実施時まで提出</li> </ul> <p>【全世帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会を通して全世帯にアンケート調査票を配布し、自治会を通じた調査票の回収又はWEB回答にて回収</li> </ul>																		
配布回収数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート対象者</th> <th>配布枚数</th> <th>回収枚数</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者大学</td> <td>105枚</td> <td>37枚</td> <td>35.2%</td> </tr> <tr> <td>いきいき100歳体操</td> <td>72枚</td> <td>63枚</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>全世帯</td> <td>5,064枚</td> <td>1,830枚 (調査票:1,527枚 WEB:303枚)</td> <td>36.1%</td> </tr> </tbody> </table>			アンケート対象者	配布枚数	回収枚数	回収率	高齢者大学	105枚	37枚	35.2%	いきいき100歳体操	72枚	63枚	87.5%	全世帯	5,064枚	1,830枚 (調査票:1,527枚 WEB:303枚)	36.1%
アンケート対象者	配布枚数	回収枚数	回収率																
高齢者大学	105枚	37枚	35.2%																
いきいき100歳体操	72枚	63枚	87.5%																
全世帯	5,064枚	1,830枚 (調査票:1,527枚 WEB:303枚)	36.1%																

## 2. アンケート結果

### 2.1 地域公共交通の認知状況

- ・コミュニティバス及びていじゅうろうは、ほぼ全ての回答者が知っているが、てくてくバス、予約型乗合タクシーは「まったく知らない人」が約4割となっており、更なる周知が求められる。
- ・全ての地域公共交通で、回答者の8割以上で利用経験がないことから、周知と共に利用促進や利用機会の創出が求められる。
- ・てくてくバスは、特に鞍居地区において認知状況が高くなっている。

< 地域公共交通の認知状況 >



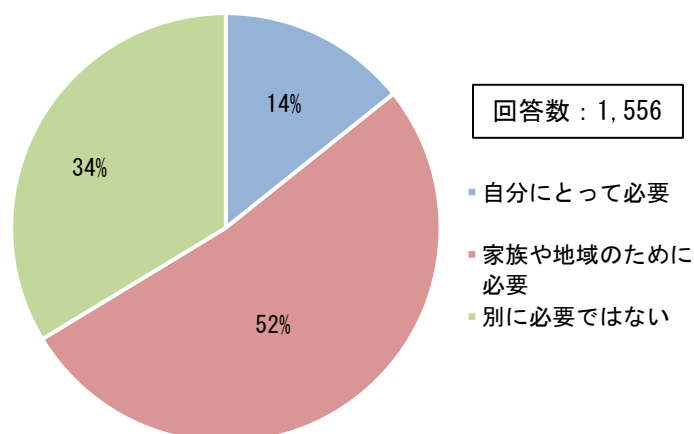
※( )は回答者数を示す

## 2.2 コミュニティバスの必要性

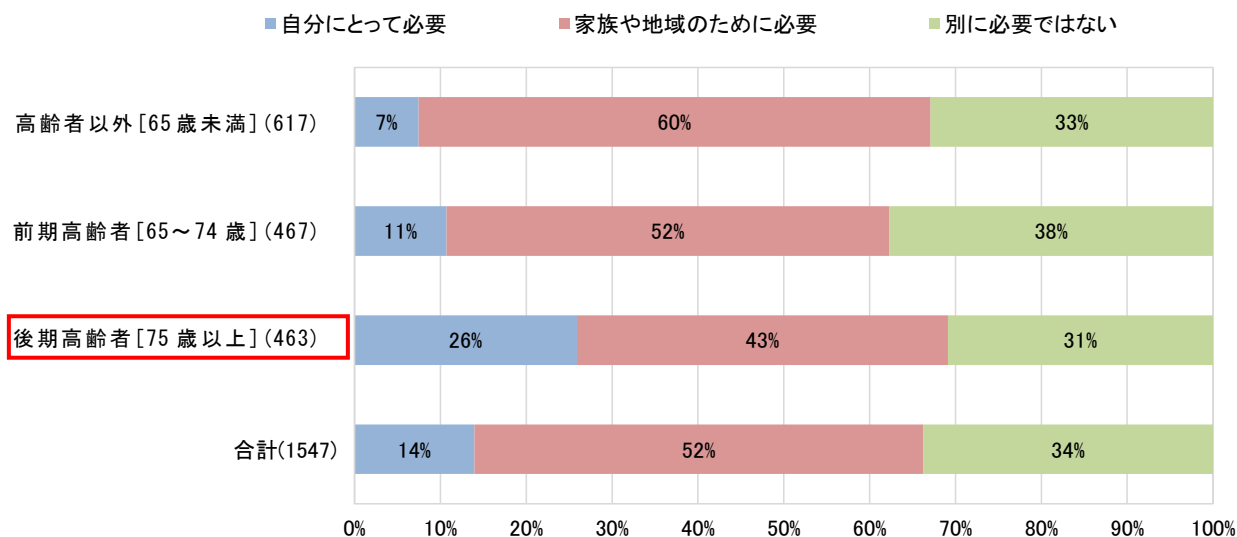
- ・コミュニティバスは、約7割※<sup>1</sup>の人が必要性を感じており、特に75歳以上の後期高齢者において、自分にとって必要だと感じている人が多い。
- ・その他では、「運転免許を持っていない」又は「一人暮らし」又は「日頃よく利用する交通手段が送迎」又は「日頃よく利用する交通手段が公共交通」の人で、自分にとってコミュニティバスを必要としている人が多くなっている。
- ・コミュニティバスは、クルマを利用しづらい高齢独居世帯（運転免許なし・一人暮らし）にとって、重要な移動手段となっていることが考えられる。

※1 「自分にとって必要（14%）」「家族や地域のために必要（52%）」の合計（66%）

< コミュニティバスの必要性の認識 >

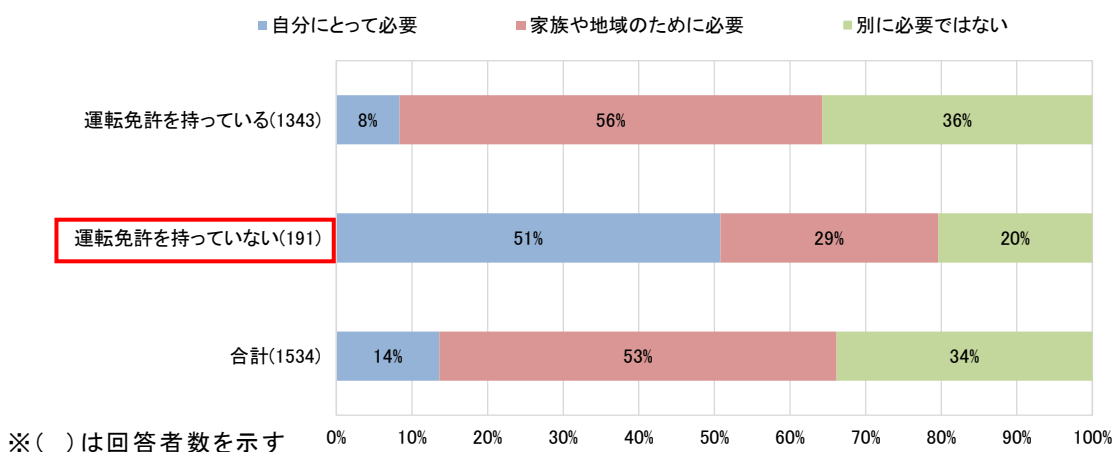


< 年齢別コミュニティバスの必要性の認識 >

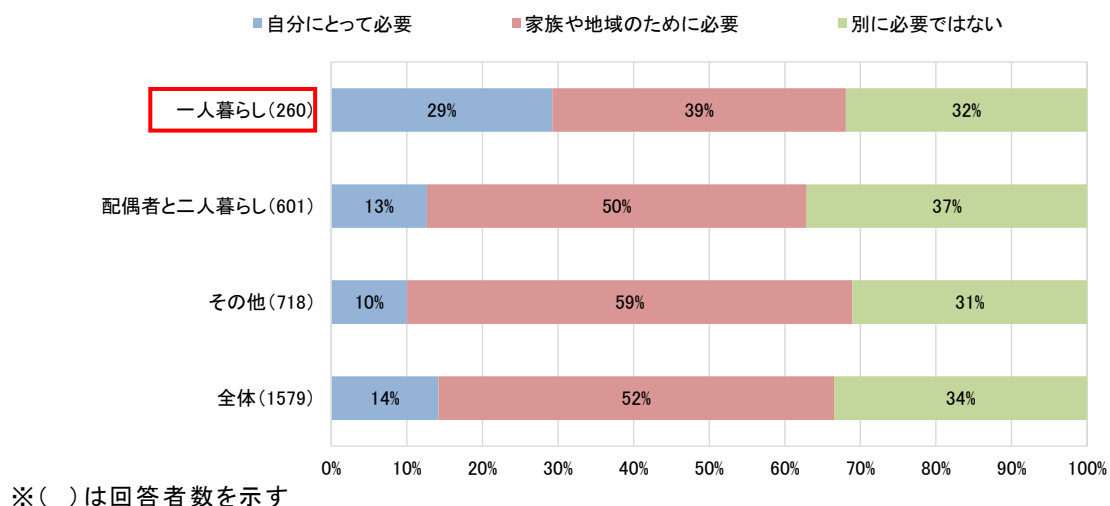


※( )は回答者数を示す

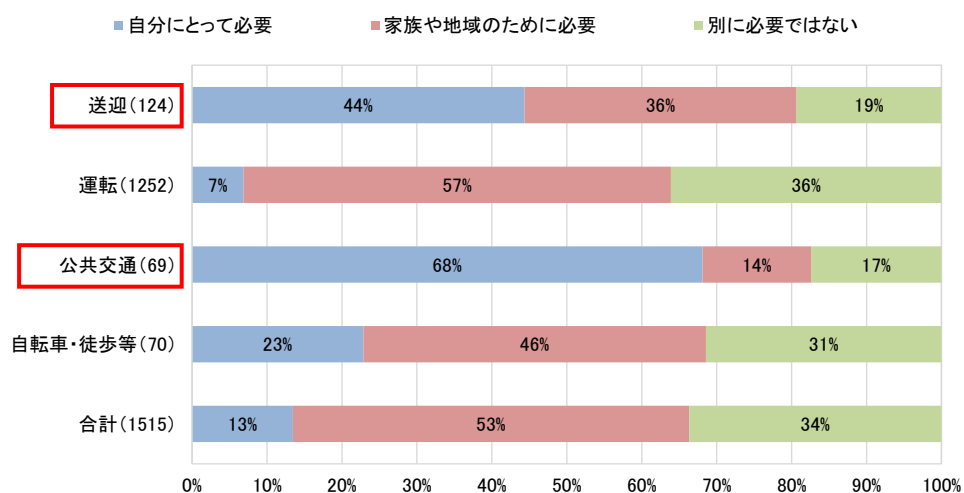
### < 運転免許保有状況別コミュニティバスの必要性の認識 >



### < 世帯構成別のコミュニティバスの必要性の認識 >



### < 日頃よく利用する交通手段別のコミュニティバスの必要性の認識 >



※( )は回答者数を示す

※高齢者大学回答者は、日頃よく利用する交通手段を尋ねていないため集計対象外とする

## 2.3 日常的によく行く施設

- ・日常的によく行く施設を地区別に見ると、すべての地区で「イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）」が最も多くなっており、地区別施設回答者の概ね2～3割程度が回答している。
- ・その他施設では、「ボンマルシェ上郡店」や「コープ上郡」等、商業施設への買物移動が比較的多く見られ、コミュニティバスは日常的な買物移動に利用されていることから、これら商業施設へのアクセス性向上が求められる。
- ・赤穂市方面への日常的な移動も見られることから、ていじゅうろうとの乗り継ぎ利便性向上や、赤穂市と連携したバスサービスの向上が求められる。

### < 日常的によく行く施設（上位3施設） >

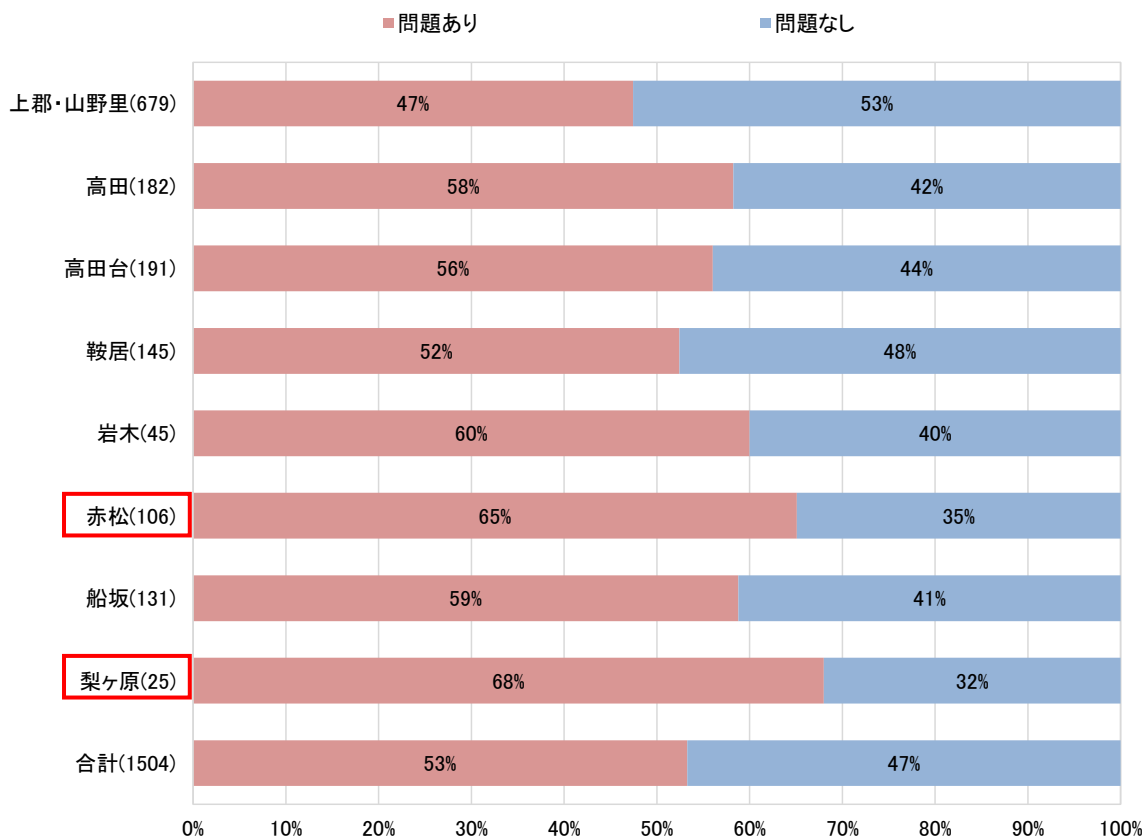
地区	施設名	回答数	施設回答割合
上郡・山野里	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	148	22%
	ボンマルシェ上郡店	45	7%
	コープ上郡	39	6%
高田	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	65	34%
	コープ上郡	14	7%
	大岩診療所	7	4%
高田台	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	72	35%
	上郡駅	11	5%
	赤穂市（施設不明）	8	4%
鞍居	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	33	22%
	イオン赤穂店	6	4%
	コープ上郡	5	3%
岩木	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	11	23%
	ドラッグストアコスモス上郡店	5	11%
	コープ上郡	4	9%
赤松	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	23	22%
	コープ上郡	10	10%
	赤穂市（施設不明）	4	4%
船坂	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	14	10%
	ボンマルシェ上郡店	13	10%
	イオン赤穂店	6	4%
梨ヶ原	イオンタウン（マックスバリュ上郡南店等）	9	33%
	上郡町役場	2	7%
	赤穂市（施設不明）	2	7%

※日常的によく行く施設のうち、施設立地場所の回答があった施設のみ集計

### 2.3 公共交通を利用する上での問題点

- ・地区別に公共交通を利用する上での問題点の有無を見ると、上郡・山野里地区以外のすべての地区で、アンケート回答者の半数以上が問題を感じており、梨ヶ原や赤松で問題を感じている人が多くなっている。

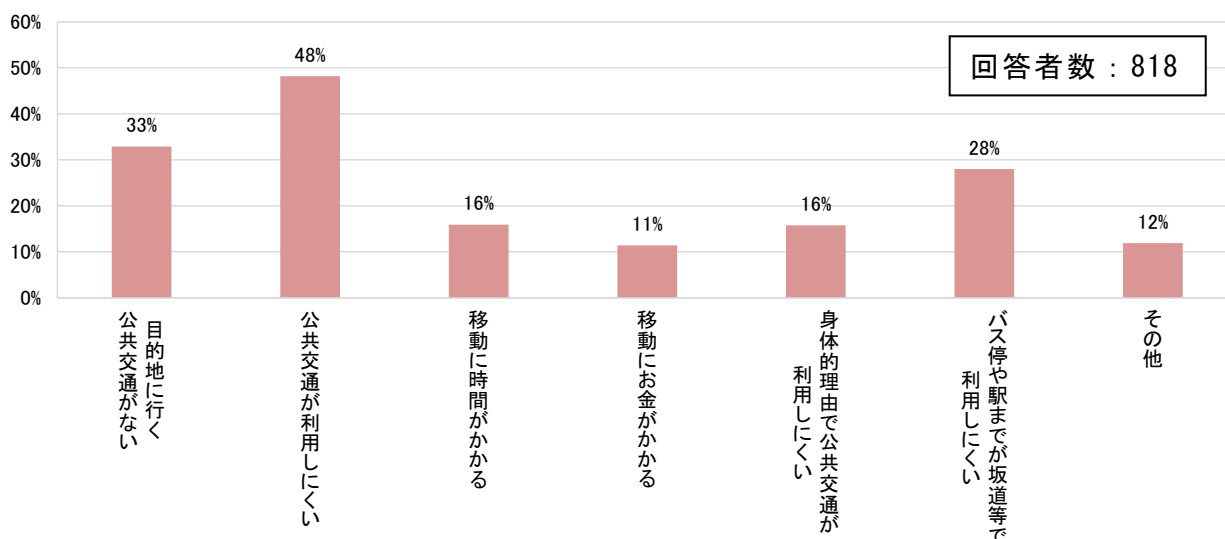
< 地区別公共交通の問題の有無 >



※( )は回答者数を示す

- ・公共交通を利用する上での問題点は、「公共交通が利用しにくい」が最も多くなっており、次いで「目的地に行く公共交通がない」「バス停や駅までが坂道等で利用しにくい」となっている。
- ・「公共交通が利用しにくい」の回答の具体的な意見は、「運行本数が少ない（鉄道・バス含む）」「鉄道・バス等の接続が悪い」「バス停が遠い」「バスの乗り換えが不便」「利用方法がわからない」等となっている。
- ・運行本数やバス停は、公共交通の利用の少ないエリアの見直しや、公共交通を必要としている人に合わせて、地域ごとの運行本数等やバス停の位置の見直しが求められる。

### < 公共交通を利用する上での問題点 >



### < 「公共交通が利用しにくい」の具体的な意見 >

値：地区における意見構成比

	運行本数が少ない	鉄道・バス等の接続が悪い	バス停が遠い	バスの乗り換えが不便	利用方法がわからない	その他
上郡・山野里	49%	7%	16%	7%	7%	26%
高田	31%	13%	41%	8%	3%	13%
高田台	55%	14%	6%	0%	10%	18%
鞍居	41%	16%	28%	6%	0%	22%
岩木	31%	38%	31%	0%	0%	8%
赤松	35%	6%	39%	3%	0%	19%
船坂	27%	8%	43%	8%	3%	24%
梨ヶ原	8%	8%	58%	17%	0%	17%
全体	41%	11%	26%	6%	5%	21%

### 3. 現状と課題

- ・町内を運行する地域公共交通のうち、コミュニティバス及びいじゅうろうの認知状況は高いものの、てくてくバス及び予約型乗合タクシーの認知状況は低いことから、認知度向上のための取組みが必要となっている。
- ・町民の約7割は、コミュニティバスを町民にとって必要な交通手段として認識しており、今後も継続的に運行する必要があると考えられる。特に、75歳以上の後期高齢者、運転免許非保有者、一人暮らし、日常的な移動手段が送迎や公共交通利用の人にとって必要とされており、クルマが利用しにくい人の移動手段となっていることがうかがえる。
- ・各地区からマックスバリュやコープなどの商業施設への移動が多く見られ、公共交通に問題を感じている人も半数程度見られる。特に、公共交通の運行本数やバス停の設置位置についての問題点を挙げる人が多い。

### 4. 課題を受けた対応方針

- ・主に、高齢者を対象にコミュニティバスや予約型乗合タクシーの周知徹底を行うため、町広報誌による広報や、地域と連携した取組みを行う。
- ・クルマが利用しづらい人の移動実態（目的地や利用施設）にあわせたコミュニティバスの再編が求められる。特に、送迎等現状でクルマ利用に頼らざるを得ない人の移動に沿った再編が必要と考えられる。
- ・今後、「2.2 コミュニティバスの必要性」で分析した公共交通が必要な人にあわせて、地域ごとの運行本数を調整していくことが求められる。また、現状で利用が少ないエリアやバス停については、利用が進んでいない要因を把握した上で、ルートやバス停位置の見直しを図っていく必要がある。